村・教育行政報告

第一回定例会

平成二十六年第一回議会定例会が三月七日から十四日の日程で開催され、議会初日、村長・教育長が村・教育行政報告を行いました。

行政報告

村長　東出輝一

▽要望・要請活動

《中央要望活動》

●十二月十八日より二日間、議会の意見書提出で上京中の馬渕議員と藤永議員とともに、年末の挨拶を兼ね、関係省庁や道内選出の国会議員を訪問し、水田農業政策や地方財政の確立について要請しました。農林水産省では、吉川副大臣と、総理大臣官邸では、衛藤補佐官と意見交換を行い、要請を行いました。

また、同日程で、土地改良事業の平成二十六年度予算の確保に向け、土地改良事業団体連合会石狩支部役員の方々と共に、道内選出の国会議員に対し要請をしました。

▽企画振興関係

●十二月六日、新篠津村まちづくり総合計画の前期基本計画が、平成二十五年度をもって終了することから後期基本計画の策定に向けて、「新篠津村総合開発計画策定審議会」を設置し、平成二十六年度から平成三十年度までの後期五ヵ年の基本計画を審議会に諮問しました。

また、これまで広く住民のご意見を反映させるため、アンケート調査の実施や自治懇談会、ホームページや広報誌でのパブリックコメント、村連合青年団など、各団体との懇談会により、住民参画に努めてまいりました。

本日、三月七日の第三回審議会において、村に答申をいただく予定です。

●昭和五十三年から毎年実施している自治懇談会は、一月十五日の武田自治会を皮切りに一月三十一日の中央自治区まで、三十五自治会を対象に地域の会館とアイリス温泉を会場に実施しました。参加者は、男性二百九十二名、女性六十九名、合計三百六十一名の方々に参加をいただきました。

▽商工観光関係

●しのつ湖のワカサギ釣りは、一月八日に解禁。今シーズンは、天候にも恵まれ、また、テレビやラジオ等の宣伝効果もあり、二月末時点で、約一万八千人が来場。特に週末は駐車場が満車になるほどの混雑ぶりで、釣り小屋待ちの利用者が、多数順番待ちするほどの盛況ぶりでした。

このことは、冬期間の観光振興に大きく寄与しているとともに、両公社のレストランや売店、温泉の売り上げ増にも大きく波及しております。

●一月三十一日、タイのツアーガイド十五人が本村を訪れ、ワカサギ釣りや釣った魚を天ぷらで試食などの体験を行いました。当日は、たっぷの湯のロビーで、田園太鼓や獅子舞などの演出を行い、多数の関係者で出迎え、その後、本村の観光ＰＲをいたしました。

北海道では、新年度より道内に外国人観光客を呼び込むための事業を始める予定であり、本村でも関係者と連携を図りながら、外国人観光客の誘致を図っていきたいと考えています。

●今年で、第四回となる「しのつ湖キャンドルナイト」を二月二十一日と二十二日の両日に、しのつ公園で開催しました。

このイベントの主催は、村観光協会と新篠津ふるさと振興公社で、初日は、役場や商工会のほか、建設関係の方々にもご協力をいただき、展望台入口まで道をつけて、その両側に約五百個のスノーキャンドルを作成しました。

また、昨年から、小学校の児童にも協力をいただいて、たっぷの湯の正面入口の庭や産直市場前にアイスキャンドルを約四百個作成していただきました。当日は、天候にも恵まれ、約三百人の見物客らが訪れ、冬のしんしんつの幻想的な景色に見入っていました。

また、今年は、新たなアトラクションとして、プロジェクションマッピングを行いました。

今後も地域の方や子供たちにも積極的に参加していただき、冬のイベントとして定着させていきたいと考えております

●二月二十二日、二十三日の両日、村内の男性と村内外の女性の出会いをつくる「婚活パーティー」を開催しました。今回三回目となるこの婚活ツアーには男性は十三人、女性十五人が参加。スイーツづくり体験やワカサギ釣りなどで交流を深め、九組のカップルが誕生しました。

▽民生関係

●本村における死亡交通事故については、平成十九年七月十三日から事故死ゼロを更新し続けており、目標の二千五百日（平成二十六年五月十七日）へ向けて事故防止活動を展開しています。

●介護保険の認定状況は一月末現在で、要支援一から要介護五までの合計で百九